

第19回（平成30年度第1回）
セーフコミュニティ交通安全対策委員会

《会議次第》

日時：平成30年4月12日(木) 10:00～

場所：市役所13階 1303会議室

1. 開会

2. 報告事項

- (1) 平成30年度のスケジュールについて
- (2) 久留米市における交通事故発生状況について（平成29年中）

3. 協議事項

- (1) 平成29年度取り組み実績及び平成30年度取り組み方針（案）について

- (2) 再認証取得に向けた本審査（書類審査・現地審査）について

- ① 現地審査スケジュール・活動視察

- ② 申請書

- ③ プレゼン資料

4. その他

- (1) 久留米市交通安全対策協議会関係 会議スケジュール

- ① 幹事会 6月中～下旬予定（ご出席をお願いいたします）

- ② 総会 7月2日（月）午後 予定（ご出席の必要はありません）

5. 閉会

平成30年度年間スケジュール

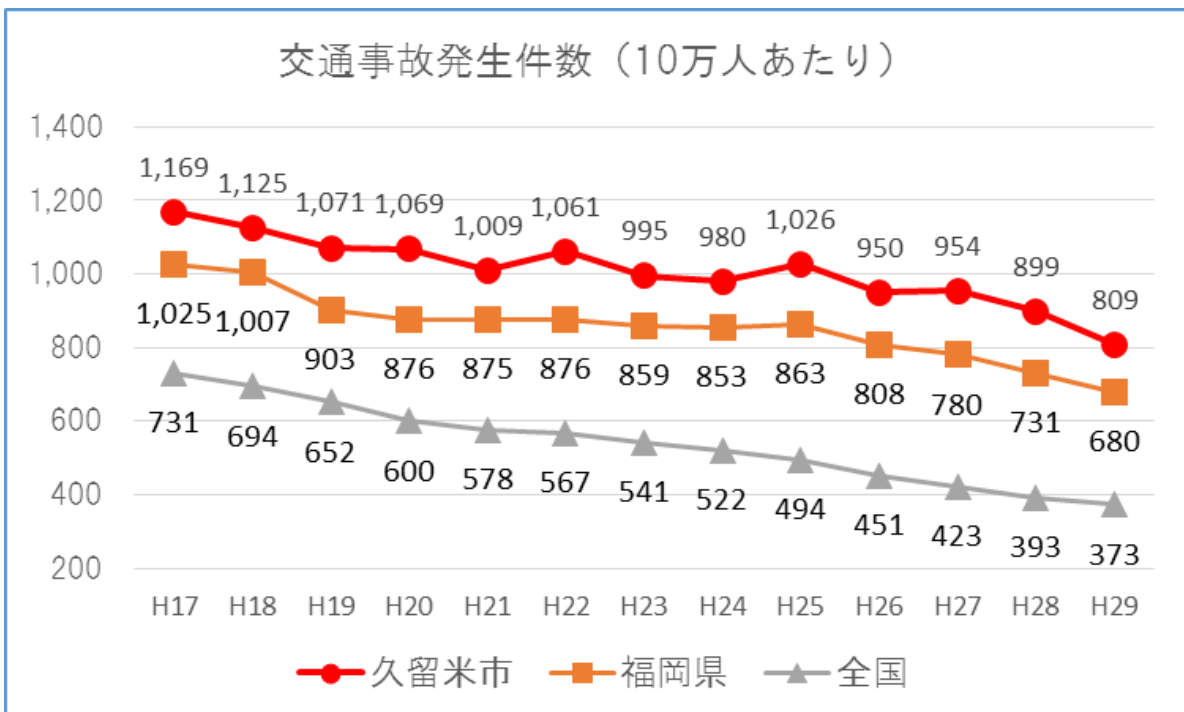
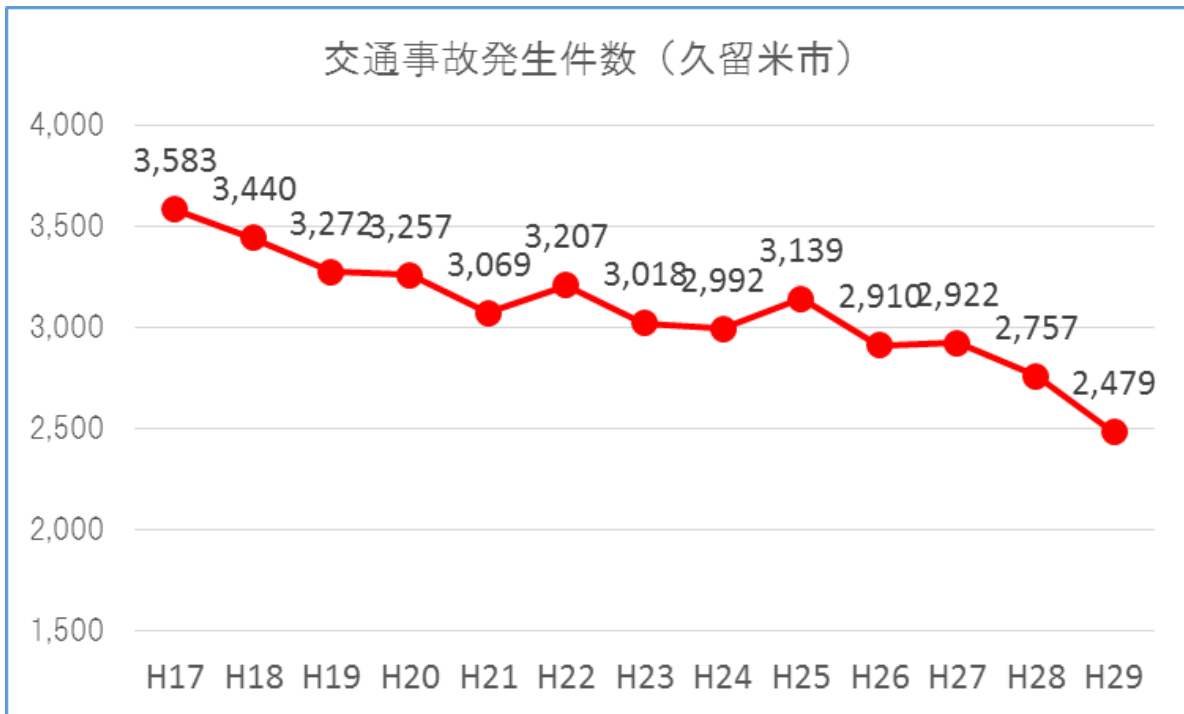
業 務	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
SC推進組織			● ①5/15 本部会議 ● ①4/24 調整会議	● ①5/29 推進協議会 ・H29実績H30方針 ・現地審査に向けて ・プレゼン資料 ・申請書 ・実行委員会設置		再 認 証 現 地 審 査	(本番) ②推進協議会			再 認 証 式 典 及 び フ ェ ス タ				
対策委員会	←-----→ ①対策委員会 ・H29実績H30方針 ・現地審査に向けて ・プレゼン資料 ・申請書				● 7月本番直前 委員長リハ	(本番) ②対策委員会		←-----→			③~④対策委員会 ・講評を踏まえた対応 ・取組推進に向けた協議 など ※1~2回開催			
外傷等動向調査委員会		←-----→ ①外傷委員会 ・現地審査について ・プレゼン資料(最終) ・申請書			● 7月本番直前 委員長リハ	(本番) ②外傷委員会								

申請書	3月 [各事務局] ・加筆修正	←-----→ JISCとの調整期間 2回目(最終) ↓ 4月末 日本語版 確定	5月 英訳	6月 申請書 提出										
プレゼン資料	[各事務局] ・加筆修正	←-----→ JISCとの調整期間(最終) ↓ 5月末 日本語版 確定	英訳	7月 日本語版・ 英訳版 完成										

久留米市における交通事故の現状（H29 年中）

データ:警察統計もしくは警察統計を基に事務局作成

① 交通事故発生件数



久留米市内の交通事故発生件数は減少傾向で推移しているが、10万人あたりに換算すると、県、全国と比較して高い水準にある。

② 平成 29 年中の交通死亡事故（久留米市内）

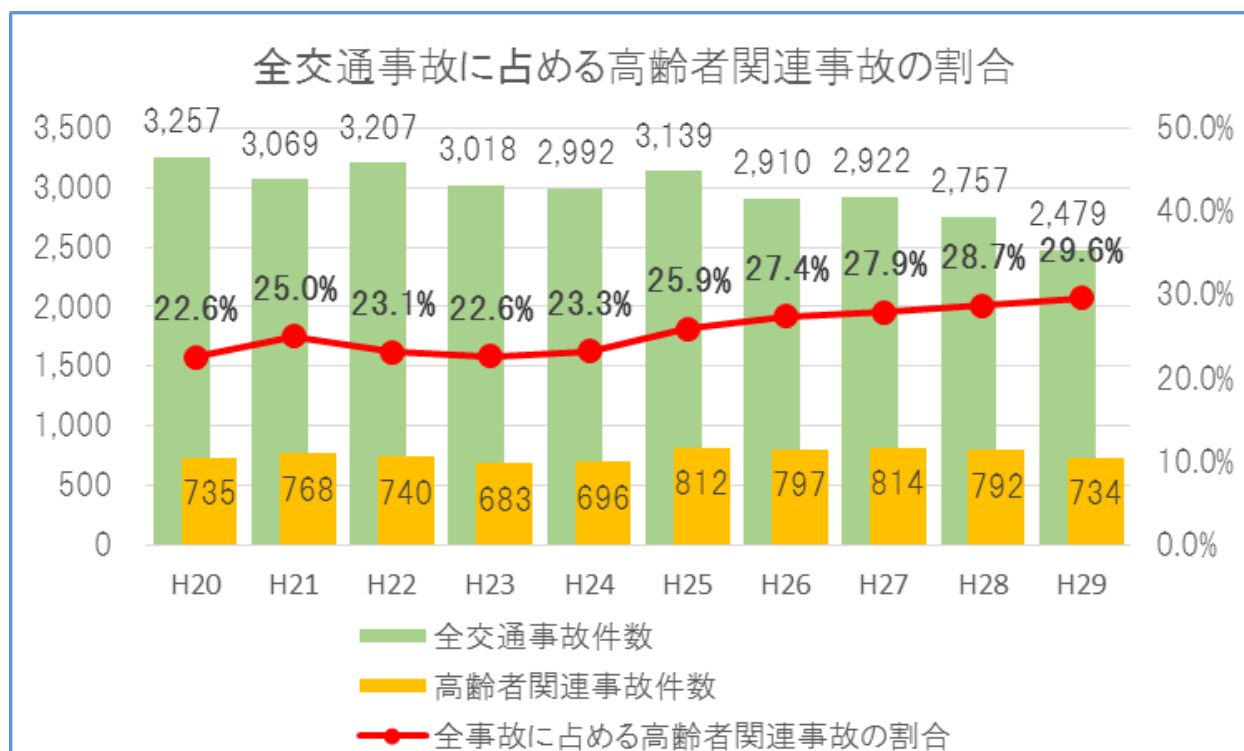
★交通事故による死亡者：平成 28 年中 10 人 → 平成 29 年中 6 人 ※4 人減少

★死亡事故 6 件中 5 件で高齢者が関係している

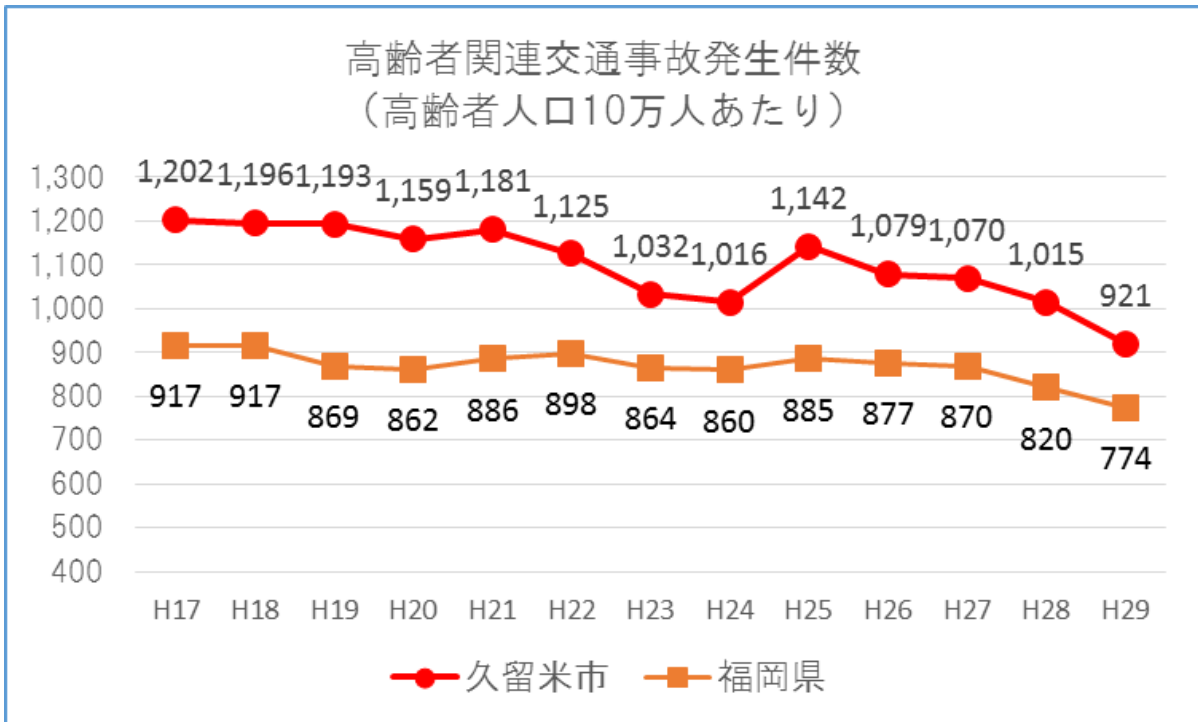
★死亡者 6 人中 4 人が高齢者

日時	場所	事故形態	当事者	死亡
2 月 22 日	大善寺町 (県道)	衝突 (横断中)	①軽四乗用 70 歳女性 ②歩行者 57 歳女性	歩行者 57 歳女性
6 月 2 日	旭町 (県道)	衝突 (横断歩道横断中)	①軽四貨物 63 歳男性 ②自転車 80 歳女性	自転車 80 歳女性
7 月 18 日	城島町 (市道)	路外逸脱 (単独)	①自転車 67 歳女性	自転車 67 歳女性
10 月 11 日	上津町 (国道)	衝突 (側方通過)	①自転車 81 歳女性 ②大型貨物 48 歳男性	自転車 81 歳女性
11 月 9 日	諏訪野町 (国道)	衝突 (轢過)	①軽四乗用 19 歳男性 ②歩行者 23 歳男性	歩行者 23 歳男性
11 月 11 日	北野町 (市道)	衝突 (出会い頭)	①軽四貨物 82 歳男性 ②原付バイク 70 歳女性	原付バイク 70 歳女性

③ 高齢者の交通事故発生件数

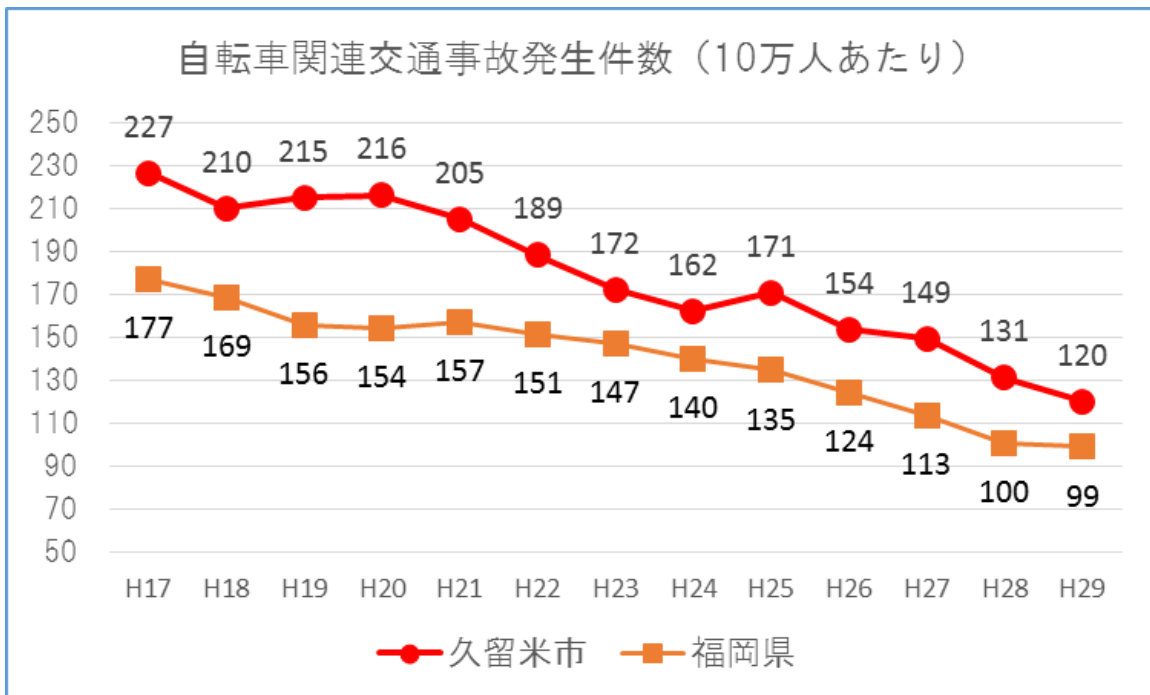


高齢者の交通事故発生件数は増加～横ばい傾向で推移しているが、全交通事故に占める割合は高まっている。



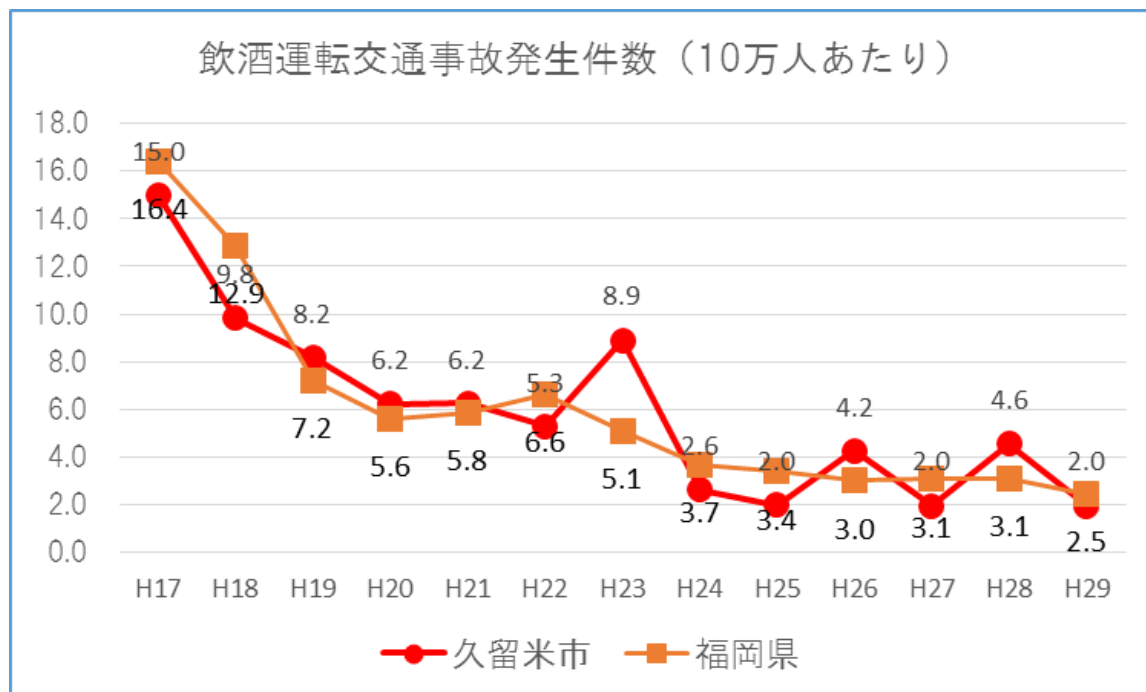
高齢者の交通事故発生件数は増加～横ばいで推移しているが、高齢者人口が増加しているため、10万人あたりに換算すると、減少傾向である。
しかしながら、依然として県と比較すると高い水準にある。

④ 自転車の交通事故発生件数



自転車の交通事故発生件数は、平成 25 年に増加に転じたものの、以降は再び減少傾向となっている。
依然として県より高い水準にあるが、その差は狭まっている。

⑤ 飲酒運転事故発生件数



飲酒運転による交通事故発生件数は、減少傾向にあるが、飲酒運転の撲滅には至っていない。
概ね県平均と同様の推移となっている。

セーフコミュニティ再認証事前指導(H29.10.23)における
海外審査員からの助言、指摘事項と対応方針(案)について

【交通安全対策委員会】

	助言、指摘事項等	対応方針(案)
1	交通事故の件数だけでなく、交通事故によりケガをした人数を見るのも大切では。	セーフコミュニティの取り組み開始時に、高齢者の交通事故防止及び自転車の安全利用を重点項目とした要因の一つとして、交通事故にあったときの死亡・重傷率が高いという点があるので、引き続きそのデータは確認していく。 (プレゼン資料ではなく、認証申請書に記載)
2	高齢者が交通事故の問題は、高齢者が被害者になることか、加害者になることか？ 整理すると対象者や対策などが明らかになるのでは。	どちらも重要な問題であるため、両方を減らすための取り組みとしている。 (審査員に上手く伝わらなかったようなので、プレゼン時の口頭説明等を見直したい)
3	安全安心マップは、インターネット公開などにより、子どもも使用できるようにするといいいのでは。	マップ作成校区の全世帯に配布しており、子どもたちの目にも触れていると思うが、より効果的な活用の面から、今後の検討課題としたい。
4	高齢者の交通事故防止のための環境整備も必要ではないか。	行政の取り組みが主であり、対策委員会の取り組みとして整理することは難しい。 しかしながら、何かしら指摘への反応を示す必要があるため、プレゼン資料に「ゾーン 30」「自転車通行空間」の整備を盛り込む。

【高齢者事故防止】1—① 運動能力や身体機能に着目した啓発・講習の実施 <拡充>

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の歩行中や自転車の死亡事故が多い ・運動能力や身体機能の変化に応じた行動が取れていない ・高齢者が加害者となる事故が増加している 						
	主観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が交通安全に関する知識を得る機会が少ない 						
目標	高齢者関連事故の減少、高齢者が第一当事者となる交通事故件数(割合)の減少							
内容	歩行中や自転車・自動車運転中に自らの運動能力等を自覚した行動を意識してもらうため、様々な機会を捉えた講習を実施するとともに、運転免許証自主返納制度の周知や返納を後押しする支援などに取り組む							
対象者	一般市民(高齢者)							
実施者	交通安全協会、交通安全指導員等ボランティア、老人クラブ連合会等関係団体 警察、市 など							
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全講習会の開催 ・街頭啓発キャンペーン、各種交通安全イベントへの参加 ・委員の所属団体や関係団体における啓発、団体広報紙等への記事掲載 ・チラシ、啓発グッズの作成 							
29年度の実績及び改善した点等	<ul style="list-style-type: none"> ・警察や交通安全協会、自動車学校等と連携し、シルバーセーフティスクールを開催(4月/実技・体験型講習) ・高齢者対象の交通安全教室(警察・随時) ・交通安全運動説明会の実施(ボランティア、企業、関係団体向け) ・市高齢運転者免許証自主返納支援事業(自主返納制度の周知、返納の契機づくり) ・グラウンドゴルフ大会等での啓発 <p><改善点></p> <p>免許返納の周知について、老人クラブ連合会や地域包括支援センター、医師会と連携安全運転サポート車の周知・体験試乗を実施</p>							
30年度の方針及び課題等	<p>体験型交通安全講習を受ける機会の拡大【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各校区コミュニティ組織等との連携 ○交通安全指導員、ボランティア等による地域での自主活動の促進(指導員等への情報提供の充実) <p>運転免許自主返納制度の周知、返納支援【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティ組織や老人クラブ連合会、関係機関との連携 ○自主返納を後押しする支援の検討、実施 							
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017	
活動指標	①高齢者対象交通安全講習の実施回数	回	142	46	34	30	40	
	②高齢ドライバー向け啓発活動の実施回数	回	2017より実施				10	
【短期】認識・知識	【旧】高齢者の交通安全に関する意識や行動の変化 [SC実態調査(3年毎)]	%	—	33.3	—	—		
	【新】講習参加者の意識の変化[アンケート] 受講後、「必ず反射材を身につけて外出するようにする」と答えた方の割合	%	2017より実施 (受講後、「必ず反射材を身につけて外出するようにする」と答えた方の割合)				59.1	
【中期】態度・行動	【新】運転免許自主返納者数[警察統計]	人	市町村別の統計なし			509	1,268	
【長期】状況	①第1当事者となる高齢者の交通事故発生件数	件	500	513	517	515	482	
	②高齢者人口1万人あたりの①の件数	件	70.3	69.5	68.0	66.0	60.3	



【高齢者事故防止】1-② 明るい服及び反射材の着用キャンペーンの実施

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の歩行中や自転車の死亡事故が多い ・薄暮時から夜間にかけての歩行中の事故が多い 					
	主観的課題	高齢者が交通安全に関する知識を得る機会が少ない					
目標	夕方・夜間の高齢者関連交通事故件数(割合)の減少						
内容	夜間・薄暮時の外出時に車両から早期に発見されることで交通事故を回避するため、高齢者に対して、明るい服や反射材の着用を促す街頭キャンペーンを実施する						
対象者	一般市民(高齢者)						
実施者	交通安全協会、交通安全指導員等ボランティア、老人クラブ連合会等関係団体 警察、市 など						
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全講習会の開催 ・街頭啓発キャンペーン、各種交通安全イベントへの参加 ・委員の所属団体や関係団体における啓発、団体広報紙等への記事掲載 ・チラシ、啓発グッズの作成 						
29年度の実績 及び 改善した点等	<ul style="list-style-type: none"> ・警察、交通安全協会等と連携した高齢者の交通事故防止キャンペーン実施(10回) ・交通安全運動説明会の実施(ボランティア、企業、関係団体向け) ・防犯対策委員会との連携(青パト活動団体の夜間パトロール時に反射材配布) ・反射材体験コーナー設置(市役所ロビー) ・高齢者福祉大会、グラウンドゴルフ大会時の啓発、反射材配布 						
30年度の方針 及び 課題等	<p>反射材着用等の重要性を知る機会の拡大【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様なキャンペーンの実施 ○周知広報の充実 <p>防犯対策委員会との連携【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○青パト活動団体等との連携 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的なキャンペーンの実施 						
	 						
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017
活動指標	①キャンペーンの実施回数	回	9	9	11	11	10
	②出前講座の実施回数	回	6	14	11	12	4
【短期】認識・知識	【新】出前講座受講者の意識の変化[アンケート]	%	2017より調査				59.1
【中期】態度・行動	【旧】高齢者の夕方・夜間帯の交通事故件数・高齢者事故に占める割合[警察統計]	件	294	283	272	275	
	%	36.2	35.5	33.4	34.7		
	【新】反射材の着用率[SC実態調査(3年毎)] ※必ず身に着けている人の割合	%	2017より調査				7.5
【長期】状況	①高齢者の夕方・夜間(15時～21時)における交通事故発生件数	件	294	283	272	275	249
	②高齢者人口1万人あたりの①の件数	件	41.4	38.3	35.8	35.2	31.2

【高齢者事故防止】1-③ 安全安心マップの作成

課題	客観的課題	高齢者の歩行中や自転車の死亡事故が多い					
	主観的課題	住んでいる地域でも、どこで交通事故が起きているか知らない					
目標	高齢者の交通事故発生件数、全事故に占める割合の減少						
内容	交通事故発生箇所や危険な箇所を記載した地図を作成し、見守り活動や安全施設整備など様々な交通安全活動に活用する						
対象者	一般市民						
実施者	交通安全協会、交通安全指導員等ボランティア、地域コミュニティ組織等関係団体 警察、市 など						
対策委員会の関わり	・地域との協働による研修、フィールドワーク ・防犯、防災分野との連携、調整						
29年度の実績 及び 改善した点等	日吉校区でのフィールドワーク(危険箇所確認)、マップ完成 西国分校区でのフィールドワーク、マップ作成作業開始 ※ともにPTAが中心となり、校区・関係団体と調整						
30年度の方針 及び 課題等	他の対策委員会と連携したマップの作成【継続】 ○分野横断的なマップ作成(防犯、防災) コミュニティ組織や校区の関係団体との連携【継続】 ○校区コミュニティ組織や校区の交通安全協会・防犯協会、学校、PTA等との連携 作成したマップを活用した各種取り組み強化・環境改善【継続】 <課題> ・既存マップ(他分野、類似物)との整理						
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017
活動指標	市との協働によりマップ作成に取り組んだ校区数	校区 (延べ)	1	1 (2)	0 (2)	1 (3)	2 (5)
【短期】認識・知識	マップ作成校区の交通事故発生件数 [警察統計](前年比)	件	38 (-2)	107 (-21)	120 (+13)	240 (-4)	410 (-33)
【中期】態度・行動	マップを作成し、交通安全に取り組んでいる校区数 [各校区へのアンケート調査]	校区	—	31	—	—	—
【長期】状況	①高齢者の交通事故発生件数	件	812	797	814	792	734
	②高齢者人口1万人あたりの①の件数	件	114.2	107.9	107.0	101.5	92.1



【自転車安全利用】 1-④ 交通安全教室の実施

課題	客観的課題	10歳代の自転車事故が突出して多い					
	主観的課題	年代に応じた交通安全教育が不足 { 10歳代前半:自転車に慣れていない 10歳代後半:通学など行動範囲の拡大 }					
目標	自転車の交通事故発生件数・全事故に占める割合の減少						
内容	地域の交通安全ボランティアの協力を得て、年齢に応じた交通安全教育を実施するとともに、対象を中学生、高校生に拡大して実施						
対象者	幼稚園・保育園児、小学生、中学生、高校生						
実施者	地域交通安全活動推進委員、交通安全指導員、交通安全協会、学校警察、市 など						
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室の実施 ・委員の所属団体や関係団体における啓発 ・チラシ、啓発グッズの作成 						
29年度の実績及び改善した点等	<ul style="list-style-type: none"> ・警察及び交通ボランティア等と連携し、年齢層に応じた交通安全教室を実施 ※全小学校で自転車教室実施 ・交通安全運動説明会の実施(ボランティア、企業、関係団体向け) ・中学校新入学説明会で自転車安全利用チラシ配布 ・「青少年の非行を生まない社会づくり推進対策本部」主催による高校生の討論会(自転車の乗車マナーについて) ・県との連携(小学生とその保護者を対象とした自転車安全利用講習会) ・保護者向け交通誘導教室の開催(2校区) 						
30年度の方針及び課題等	<p>中学生・高校生への交通安全教育の充実【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各中学校、高校への働きかけ ※防犯教室や非行防止教室との連携等 						
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017
活動指標	①交通安全教室の実施回数	回	200	149	164	192	247
	②参加者数	人	24,716	20,223	19,537	19,436	26,851
【短期】認識・知識	交通ルールについて、「知っており、守っている」と答えた割合 [自転車駐車場利用者アンケート※19歳以下]	%	63.2	58.7	70.6	59.6	3月末実施集計中
【中期】態度・行動	自転車関連事故に占める19歳以下の件数[警察統計]	件	194	189	177	163	136
【長期】状況	自転車の交通事故発生件数	件	523	471	458	403	368



【自転車安全利用】 1-⑤ 自転車安全利用キャンペーンの実施

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・10歳代の自転車事故が突出して多い ・自転車に関するルールを守らない、知らない人が多い 					
	主観的課題	自転車は車両であるという意識が低い					
目標	自転車の交通事故発生件数・全事故に占める割合の減少						
内容	駅周辺や自転車駐車場において、自転車利用者を対象に、ルール・マナー遵守の徹底と安全利用を呼びかける街頭啓発を実施						
対象者	一般市民(自転車利用者)						
実施者	地域交通安全活動推進委員、交通安全指導員、交通安全協会、自転車商組合等関係団体 警察、市など						
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・街頭啓発キャンペーン、各種交通安全イベントへの参加 ・委員の所属団体や関係団体における啓発、団体広報紙等への記事掲載 ・チラシ、啓発グッズの作成 						
29年度の実績 及び 改善した点等	<ul style="list-style-type: none"> ・警察、ボランティア等と連携したキャンペーンの実施(14回) ※防犯分野と連携し、「自転車ツーロック」を同時に呼びかけ ・自転車利用者に対し、街頭でリフレクター、サイクルライト等を配布 ・交通安全運動説明会の実施(ボランティア、企業、関係団体向け) ・新成人に対する啓発チラシの配布 ・中学校新入学説明会で自転車安全利用チラシ配布 ・自転車利用者に対するアンケート調査実施 ・自転車関係イベントへ参加し、交通安全ブース設置 						
30年度の方針 及び 課題等	<p>マナー・ルールを知る機会の拡大【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様なキャンペーンの実施 ○周知広報の充実 <p>他分野との連携【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○防犯分野(自転車ツーロック)との連携 ○交通政策部門(ハード整備含む)との連携 						
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017
活動指標	キャンペーンの実施回数、配布物数	回	18	12	10	13	14
		セット	3,000	4,200	3,800	4,000	4,160
【短期】認識・知識	交通ルールについて、「知っており、守っている」と答えた割合 [自転車駐車場利用者アンケート※20歳以上]	%	67.2	66.6	74.9	75.6	集計中
【中期】態度・行動	自転車関連事故に占める20歳以上の件数[警察統計]	%	329	282	281	240	232
【長期】状況	自転車の交通事故発生件数	件	523	471	458	403	368



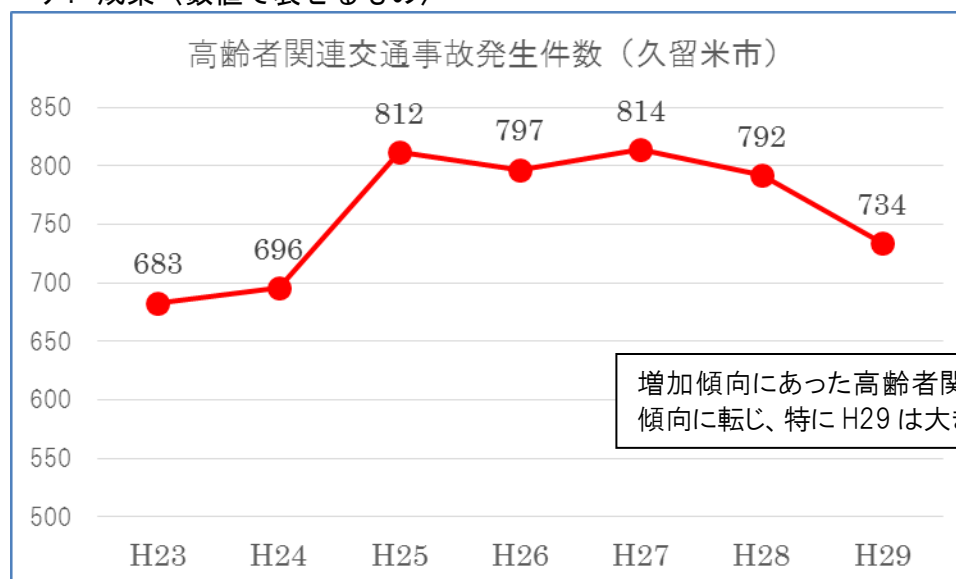
平成29年度取り組み実績及び平成30年度取り組み方針

交通安全対策委員会

重点取り組み項目	No	具体的施策名
高齢者の交通事故防止	1-①	運動能力や身体機能に着目した啓発・講習の実施
	1-②	明るい服及び反射材の着用キャンペーンの実施
	1-③	安全安心マップの作成
自転車事故の防止	1-④	交通安全教室の実施
	1-⑤	自転車安全利用キャンペーンの実施

【平成29年度取り組み実績】

ア. 成果〈数値で表せるもの〉



増加傾向にあった高齢者関連事故発生件数が横ばい～減少傾向に転じ、特にH29は大きく減少した

イ. 成果〈数値で表せないもの〉

啓発活動に関して、継続的に各団体等と連携できた

- ・防犯対策との連携（青パト団体による反射材の配布）
- ・街頭キャンペーンへの協力（自転車商組合等）
- ・老人クラブ連合会、医師会、地域包括支援センターとの連携
- ・青少年健全育成分野との連携
- ・民間企業との連携（講習会への協力、啓発物の提供など）

ウ. 29年度の取り組みで最も成功した事例

高齢運転者の交通事故防止を目的とした市の運転免許自主返納支援事業（29年度事業）の周知啓発について、各団体等との連携により効果的に図られ、多くの方が交通安全について考える契機となった。

エ. 29年度で最も積極的に取り組んだ活動

反射材着用の重要性及び高齢運転者の事故防止について広く呼びかけた。

- ・反射材の効果を実験するコーナーの継続設置（市役所ロビー）
- ・出前講座等での反射材実演
- ・防犯対策と連携した啓発（青パト活動団体との連携等）
- ・免許証自主返納制度の周知
- ・安全運転サポートカーの体験試乗

オ. 分野横断的に行っていること

- ・警察をはじめ、各行政機関や関係団体、交通関係事業者等で組織する「久留米市交通安全対策協議会」において、ソフト・ハード面における取り組みを協議しながら、それぞれの役割に応じた活動を行っている。
- ・啓発活動における各団体との連携
老人クラブ連合会や医師会、民間企業等と連携し、啓発活動を実施
- ・防犯対策、防災対策との連携
青パト活動時の反射材配布、安全安心マップ作成

カ. 今後の方向性や取り組みを進める上での課題

- ・交通事故発生件数は減少し続けており、高齢者関連事故についても、ここ数年は減少傾向となっている。しかしながら、依然として交通死亡事故に高齢者が関係（被害・加害とも）する割合は非常に高く、歩行中・運転中の両面から、更に対策を強化する必要がある。

【平成30年度取り組み方針】

具体的施策		30年度取り組み方針
1-①	運動能力や身体機能に着目した啓発・講習の実施	<p>体験型交通安全講習を受ける機会の拡大【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各校区コミュニティ組織等との連携 ○交通安全指導員、ボランティア等による地域での自主活動の促進（指導員等への情報提供の充実） <p>運転免許自主返納制度の周知、返納支援【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティ組織や老人クラブ連合会、関係機関との連携 ○自主返納を後押しする支援の検討、実施
1-②	明るい服及び反射材の着用キャンペーンの実施	<p>反射材着用等の重要性を知る機会の拡大【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様なキャンペーンの実施 ○周知広報の充実 <p>防犯対策委員会との連携【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○青パト活動団体等との連携
1-③	安全安心マップの作成	<p>他の対策委員会と連携したマップの作成【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○分野横断的なマップ作成（防犯、防災） <p>コミュニティ組織や校区の関係団体との連携【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校区コミュニティ組織や校区の交通安全協会・防犯協会、学校、PTA等との連携 <p>作成したマップを活用した各種取り組み強化・環境改善【継続】</p>
1-④	交通安全教室の実施	<p>中学生・高校生への交通安全教育の充実【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各中学校、高校への働きかけ ※防犯教室や非行防止教室との連携等
1-⑤	自転車安全利用キャンペーンの実施	<p>マナー・ルールを知る機会の拡大【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様なキャンペーンの実施 ○周知広報の充実 <p>他分野との連携【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○防犯分野（自転車ツーロック）との連携 ○交通政策部門（ハード整備含む）との連携

本審査 スケジュール【案】

	1日目 7月29日 (日)	2日目 7月30日 (月)	3日目 7月31日 (火)	4日目 8月1日 (水)
9:00		市長表敬	⑦ 対策委員会 プレゼン 活動視察 外部	
10:00		① 市の概要説明 本庁舎401	↓	↓
11:00		② 対策委員会 プレゼン 本庁舎3F	⑧ 対策委員会 シティプラザ	松原市
12:00		昼食	昼食	
13:00		↓ 移動	⑨ 対策委員会 プレゼン シティプラザ	
14:00		③ 対策委員会 活動視察 外部がシティプラ	⑩ 対策委員会 プレゼン シティプラザ	
15:00		④ 対策委員会 プレゼン シティプラザ	審査員ミーティング	
16:00		⑤ 対策委員会 シティプラザ	講評 シティプラザ	
17:00		⑥ 外傷等委員会 シティプラザ		
18:00				
19:00				

(1) 交通安全対策委員会

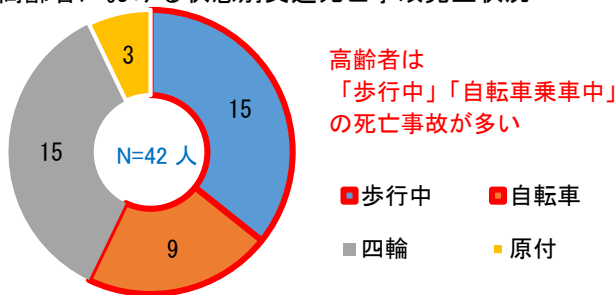
久留米市の交通事故の状況を見ると、高齢者関連の事故が増加する中で、交通事故による死亡者の半数近くが高齢者であること、また自転車や歩行者の事故は重傷・死亡事故につながりやすく、歩行者に比べ自転車の事故が多いことなどから、交通安全対策委員会では「高齢者の交通事故防止」と「自転車事故の防止」を重点項目に設定して取り組みを進めています。【図表高齢者発生事故】【図表高齢者死亡事故】【図表自転車は重傷・死亡事故】【図表事故発生件数（全容）】

[高齢者の交通事故の現状]

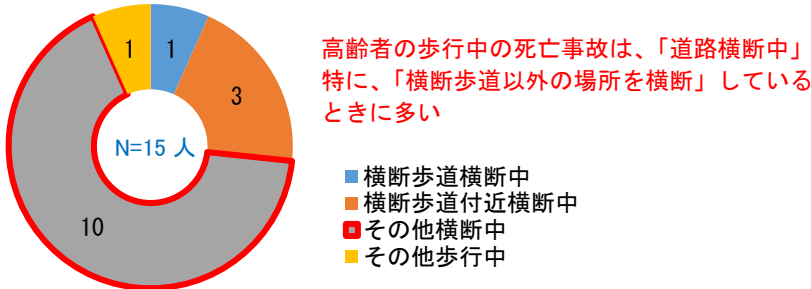
高齢者では、「歩行中」や「自転車」の交通死亡事故が多くなっています。

また、若い頃と比べて「夜間見えにくくなった」「道路の横断に時間がかかるようになった」「とっさの動作等ができにくくなった」など、体力の低下を感じている高齢者が多くなっています。

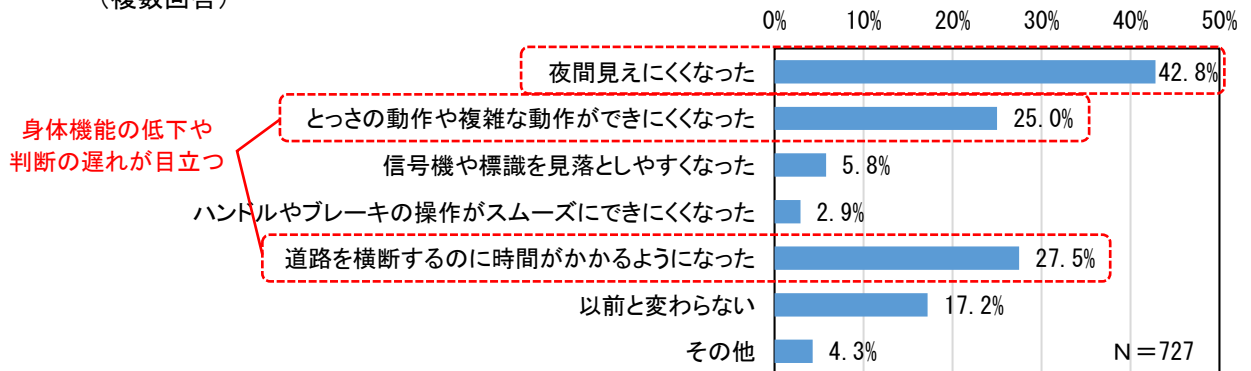
図表 高齢者における状態別交通死亡事故発生状況



図表 高齢者の歩行中における死亡事故の内訳



図表 「運転や歩行に関して、若い頃と比べて変わったと感じること」
(複数回答)

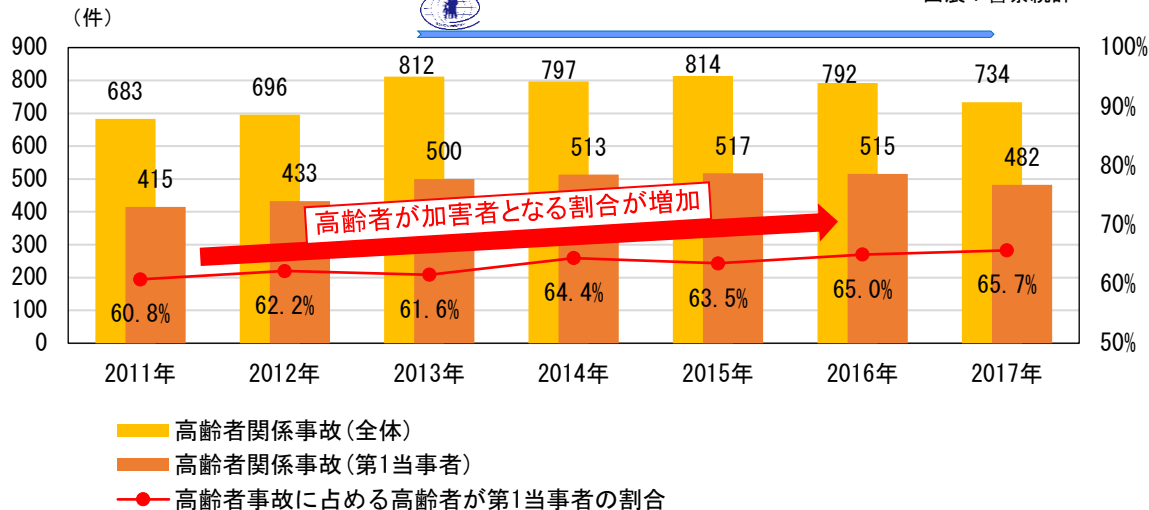


(高齢者へ「運転や歩行に関して、若い頃と比べて変わったと感じること」についてアンケート)
出展: 2017年久留米市セーフコミュニティ実態調査

さらに、近年、高齢ドライバーが第1当事者（加害者）となる事故が増加していることを受け、認証後の新たな課題として「高齢者の加害事故」を設定し、事故防止の取り組みを進めています。

図表 高齢者関連事故に占める第1当事者（加害者）の割合

出展：警察統計



昼間に比べ、薄暮時及び夜間（17時～6時）は死亡事故、重傷事故の割合が高く、状態別の発生状況を勘案すると、高齢者は夜間歩行中（道路横断中）に交通死亡事故に遭うリスクが高い状況です。

しかし、高齢者の8割以上が、夜間外出する際「反射材を身に付けていない・ほとんど身に付けていない」と回答し、その理由として「反射材を持っていない」が6割以上となっています。

図表 高齢者関連の時間帯別交通事故発生状況

昼間(6時～17時)

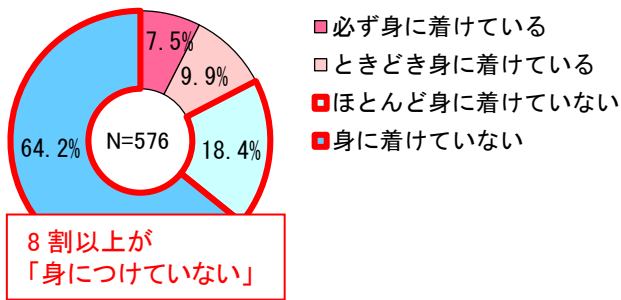
交通事故発生件数	2,970	割合
うち死亡事故件数	11	0.37%
うち重傷事故件数	51	1.72%

夜間(17時～6時)

交通事故発生件数	979	割合
うち死亡事故件数	20	2.04%
うち重傷事故件数	79	8.07%

※死亡事故の割合は昼間の約5.5倍、重傷事故は4.7倍

図表 「夜間外出する際の反射材の着用状況」
(高齢者)



(高齢者へ「夜間外出時の反射材の着用状況」についてアンケート)
出展: 2017年久留米市のセーフコミュニティに関する実態調査

図表 「反射材を身に着けていない理由」
(高齢者)

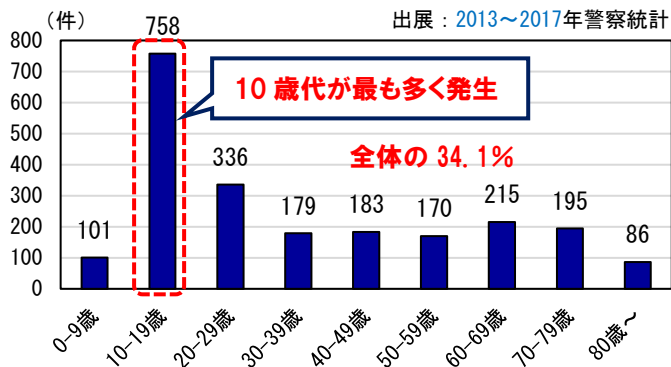


(高齢者へ「夜間外出時に、反射材を身に着けない理由」についてアンケート)
出展: 2017年久留米市のセーフコミュニティに関する実態調査

[自転車事故の現状]

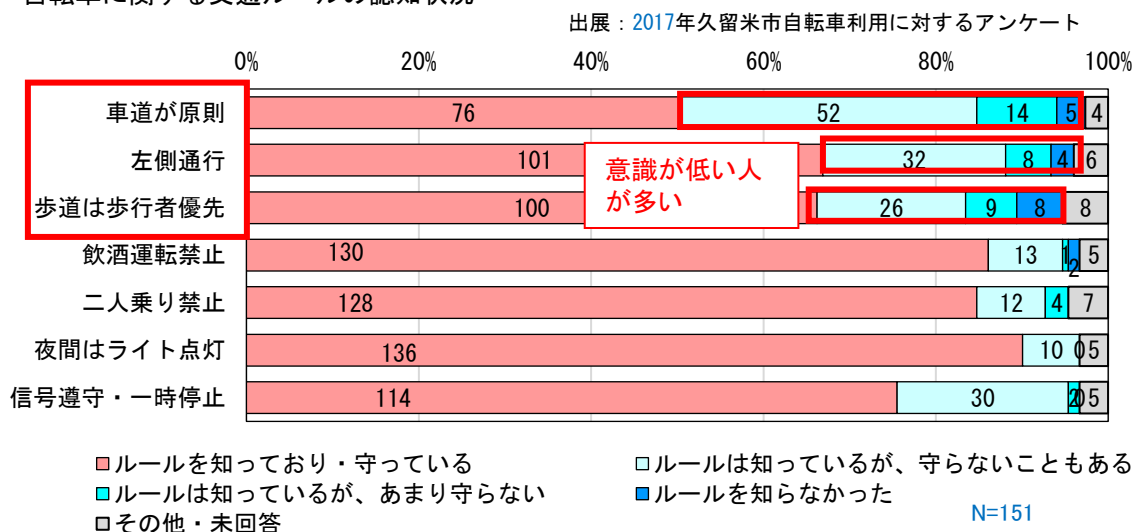
自転車の交通事故では、10歳代の件数が突出して多い状況にあります。

図表 年代別自転車事故の発生状況



車道や歩道の通行方法を守らない・知らない人が非常に多く、自転車が車両であるという意識が低くなっています。


図表 自転車に関する交通ルールの認知状況



(15~95歳の自転車利用者へ「自転車に関する交通ルール」についてアンケート)

重点項目	課題		方向性	No.	取組（当初）		No.	取組（現在）		
高齢者の交通事故防止	①	高齢者の歩行中や自転車の死亡事故が多い【図表歩行自転車による死亡】	・自らの体力を自覚した行動や運転を意識付け + 【新】 ・運転に不安を感じている人に運転免許の自主返納を呼びかける	1	実技型高齢者交通安全講習の実施	⇒ 見直し ⇒ 拡充 ⇒ 継続 ⇒ 継続 ⇒ 継続	1	運動能力や身体機能に着目した啓発・講習の実施 [対応する課題:①②③④]		
	②	運動能力や身体機能の変化に応じた行動が取れていない【図表実態調査】								
	③	新規 高齢者が加害者となる事故が増加【図表第1当事者】								
	④	主観的 高齢者が交通安全に関する知識を得る機会が少ない								
	⑤	客観的 薄暮時から夜間の歩行中の事故が多い【図表薄暮時の事故】	ドライバーからの早期発見	2	明るい服や反射材の着用キャンペーンの実施				2	明るい服や反射材の着用キャンペーンの実施 [対応する課題:①④⑤]
	⑥	主観的 どこで事故が起きているか知らない	交通危険箇所の把握	3	安全安心マップの作成				3	安全安心マップの作成 [対応する課題:①⑥]
自転車事故の防止	⑦	客観的 10歳代の自転車事故が突出して多い【図表10歳代が突出】	指導者確保による教室の充実	4	交通安全教室の実施	⇒ 継続 ⇒ 継続	4	交通安全教室の実施 [対応する課題:⑦⑧]		
	⑧	主観的 年齢に応じた交通安全教育が不足								
	⑨	客観的 自転車に関するルールを守らない・知らない人が多い【図表アンケート】	安全利用の意識付けやルール遵守の徹底	5	自転車安全利用キャンペーンの実施				5	自転車安全利用キャンペーンの実施 [対応する課題:⑦⑨⑩]
	⑩	主観的 自転車は、車両であるという意識が低い								

【高齢者事故防止】1—① 運動能力や身体機能に着目した啓発・講習の実施 <拡充>

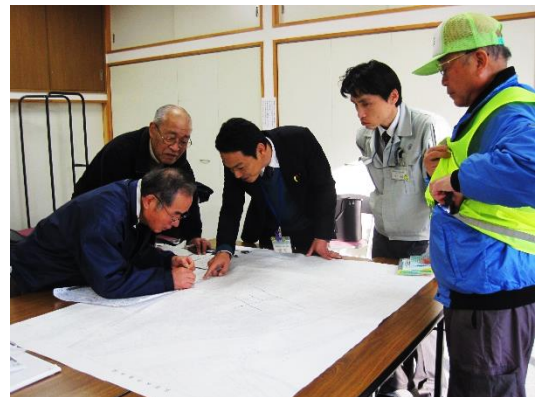
課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の歩行中や自転車の死亡事故が多い ・運動能力や身体機能の変化に応じた行動が取れていない ・高齢者が加害者となる事故が増加している 						
	主観的課題	高齢者が交通安全に関する知識を得る機会が少ない						
目標	高齢者関連事故の減少、高齢者が第一当事者となる交通事故件数（割合）の減少							
内容	歩行中や自転車・自動車運転中に自らの運動能力等を自覚した行動を意識してもらうため、様々な機会を捉えた講習を実施するとともに、運転免許証自主返納制度の周知や返納を後押しする支援などに取り組む							
対象者	一般市民（高齢者）							
実施者	交通安全協会、交通安全指導員等ボランティア、老人クラブ連合会等関係団体 警察、市 など							
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全講習会の開催 ・街頭啓発キャンペーン、各種交通安全イベントへの参加 ・委員の所属団体や関係団体における啓発、団体広報紙等への記事掲載 ・チラシ、啓発グッズの作成 							
5年間の活動内容	<p>従来、座学による交通安全講習を行っていたが、SCにより取り組みを充実させ、自らの運動能力等に応じた行動を意識付ける実技体験型講習とした。</p> <p>また、警察や関係団体等との協働により、街頭キャンペーンや四季の交通安全県民運動期間中のイベント等で随時、周知を図っている。</p> <p>なお、これまで高齢ドライバーに対しては、運動能力等を自覚した安全運転を呼びかけてきたが、高齢ドライバーによる加害事故の増加を受け、2017年に「運転を不安に感じている人に運転免許の自主返納を検討してもらう」という観点も加えて交通事故の予防を図ることとした。</p>							
								
質的成果	<ul style="list-style-type: none"> ・街頭キャンペーン活動等に協力する団体等の拡大 ・高齢者安全対策委員会との連携が拡大 							
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017	
活動指標	—	高齢者交通安全講習の実施回数	回	142	46	34	30	40
	新	高齢ドライバー向け啓発活動の実施回数	回	2017より実施				10
【短期】認識・知識	旧	高齢者の交通安全に関する意識や行動の変化 [SC実態調査(3年毎)]	%	—	33.3	—	—	/
	新	講習参加者の意識の変化[アンケート]	%	見直し後⇒				59.1
【中期】態度・行動	新	運転免許自主返納者数[警察統計]	人	市町村別の統計なし			509	1,268
【長期】状況	—	第1当事者となる高齢者の交通事故発生件数	件	500	513	517	515	482
	—	高齢者人口1万人対の上記件数	件	70.3	69.5	68.0	66.0	60.3

【高齢者事故防止】1-② 明るい服及び反射材の着用キャンペーンの実施

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の歩行中や自転車の死亡事故が多い ・薄暮時から夜間にかけての歩行中の事故が多い 					
	主観的課題	高齢者が交通安全に関する知識を得る機会が少ない					
目標	夕方・夜間の高齢者関連交通事故件数（割合）の減少						
内容	夜間・薄暮時の外出時に車両から早期に発見されることで交通事故を回避するため、高齢者に対して、明るい服や反射材の着用を促す街頭キャンペーンを実施する						
対象者	一般市民（高齢者）						
実施者	交通安全協会、交通安全指導員等ボランティア、老人クラブ連合会等関係団体 警察、市 など						
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全講習会の開催 ・街頭啓発キャンペーン、各種交通安全イベントへの参加 ・委員の所属団体や関係団体における啓発、団体広報紙等への記事掲載 ・チラシ、啓発グッズの作成 						
5年間の活動内容	<p>警察や関係団体等との協働により、街頭キャンペーンや四季の交通安全県民運動期間中のイベント等で随時、周知を図るとともに、老人クラブ連合会の総会やグラウンドゴルフ大会など、高齢者が集まる行事に出向き、啓発チラシとともに反射材を配布し、着用を呼びかけている。</p> <p>また、市役所ロビーに体験コーナーを常設し、反射材の効果のPRに努めている。</p>						
質的成果	<ul style="list-style-type: none"> ・街頭キャンペーン活動等に協力する団体等の拡大 ・防犯対策委員会との連携が拡大 <p>例) 青パト活動団体の夜間防犯パトロール時、反射材を身につけていない歩行者をみかけたら、交通安全の趣旨を伝えたくて反射材を配布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者安全対策委員会との連携が拡大 						
	 						
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017
活動指標	- キャンペーンの実施回数	回	9	9	11	11	10
	- 出前講座の実施回数	回	6	14	11	12	4
【短期】認識・知識	新 出前講座受講者の意識の変化 [受講者アンケート]	%	2017より実施				59.1
【中期】態度・行動	旧 高齢者の夕方・夜間帯の交通事故 件数・高齢者事故に占める割合 [警察統計]	件	294	283	272	275	/
		%	36.2	35.5	33.4	34.7	
	新 反射材の着用率[SC実態調査(3年毎)] ※必ず身につけている人の割合	%	2017より実施				7.5
【長期】状況	- 高齢者の夕方・夜間(15時~21時)に おける交通事故発生件数[警察統計]	件	294	283	272	275	249
	- 高齢者人口1万人対の上記件数[警察統計]	件	41.4	38.3	35.8	35.2	31.2

【高齢者事故防止】1-③ 安全安心マップの作成

課題	客観的課題	高齢者の歩行中や自転車の死亡事故が多い						
	主観的課題	住んでいる地域でも、どこで交通事故が起きているか知らない						
目標	高齢者の交通事故発生件数、全事故に占める割合の減少							
内容	交通事故発生箇所や危険な箇所を記載した地図を作成し、見守り活動や安全施設整備など様々な交通安全活動に活用する							
対象者	一般市民							
実施者	交通安全協会、交通安全指導員等ボランティア、地域コミュニティ組織等関係団体 警察、市 など							
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との協働による研修、フィールドワーク ・防犯、防災分野との連携、調整 							
5年間の活動内容	<p>既に自主的にマップを作成している校区もあるため、マップがない校区を中心に呼びかけを行い、これまで年に1校区程度の作成を行っている。</p> <p>マップの作成にあたっては、交通安全だけでなく、防犯や防災などの情報も盛り込み、分野横断的な内容としている。</p> <p>作成したマップについては校区全世帯への配布を行い、家庭での交通安全意識の向上を図るとともに、地域での高齢者の保護誘導、子どもの見守りなどに活用いただいている。</p>							
質的成果	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯対策委員会、防災対策委員会との連携が拡大 							
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017	
活動指標	市との協働によりマップ作成に取り組んだ校区数	校区 (延べ)	1	1 (2)	0 (2)	1 (3)	2 (5)	
【短期】認識・知識	マップ作成校区の交通事故発生件数 [警察統計] (前年比)	件	38 (-2)	107 (-21)	120 (+13)	240 (-4)	410 (-33)	
【中期】態度・行動	マップを作成し、交通安全に取り組んでいる校区 [各校区へのアンケート調査]	校区	—	31	—	—	—	
【長期】状況	高齢者の交通事故発生件数[警察統計]	件	812	797	814	792	734	
	高齢者人口1万人対の上記件数[警察統計]	件	114.2	107.9	107.0	101.5	92.1	



【自転車安全利用】 1-④ 交通安全教室の実施

課題	客観的課題	10歳代の自転車事故が突出して多い					
	主観的課題	年代に応じた交通安全教育が不足 { 10歳代前半：自転車に慣れていない 10歳代後半：通学など行動範囲の拡大 }					
目標	自転車の交通事故発生件数・全事故に占める割合の減少						
内容	地域の交通安全ボランティアの協力を得て、年齢に応じた交通安全教育を実施するとともに、対象を中学生、高校生に拡大して実施						
対象者	幼稚園・保育園児、小学生、中学生、高校生						
実施者	地域交通安全活動推進委員、交通安全指導員、交通安全協会、学校警察、市 など						
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室の実施 委員の所属団体や関係団体における啓発 チラシ、啓発グッズの作成 						
5年間の活動内容	<p>従前から、全小学校での実技型交通安全教室を実施していたが、SCにより取り組みを充実させ、対象を中学生・高校性に拡大して実施。</p> <p>また、保護者向け交通誘導教室の開催や、中学校新入学説明会時での自転車安全利用チラシ配布など、教室以外での啓発活動にも努めている。</p>						
							
質的成果	<ul style="list-style-type: none"> 関連事業の展開、多様な協力・支援が増えた 例) 市内高校の生徒会役員による自転車乗車マナーに関する討論会開催 (2015年～) 例) 企業から教室用信号機一式の寄附 						
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017
活動指標	- 交通安全教室の実施回数	回	200	149	164	192	247
	- 参加者数	人	24,716	20,223	19,537	19,436	26,851
【短期】認識・知識	- 交通ルールを「知っており、守っている」と答えた割合 [自転車駐車場利用者アンケート※19歳以下]	%	63.2	58.7	70.6	59.6	H30.3実施集計中
【中期】態度・行動	- 自転車関連事故に占める19歳以下の件数 [警察統計]	件	194	189	177	163	136
【長期】状況	- 自転車の交通事故発生件数 [警察統計]	件	523	471	458	403	368

【自転車安全利用】 1-⑤ 自転車安全利用キャンペーンの実施

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・10歳代の自転車事故が突出して多い ・自転車に関するルールを守らない、知らない人が多い 					
	主観的課題	自転車は車両であるという意識が低い					
目標	自転車の交通事故発生件数・全事故に占める割合の減少						
内容	駅周辺や自転車駐車場において、自転車利用者を対象に、ルール・マナー遵守の徹底と安全利用を呼びかける街頭啓発を実施						
対象者	一般市民（自転車利用者）						
実施者	地域交通安全活動推進委員、交通安全指導員、交通安全協会、自転車商組合等関係団体 警察、市など						
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・街頭啓発キャンペーン、各種交通安全イベントへの参加 ・委員の所属団体や関係団体における啓発、団体広報紙等への記事掲載 ・チラシ、啓発グッズの作成 						
5年間の活動内容	<p>月に1回程度、関係機関・団体等と連携し、自転車利用者を対象とした街頭啓発キャンペーンを行うとともに、警察による指導・取締りも併せて実施。</p> <p>なお、啓発活動においては、防犯対策分野と連携し、「自転車盗難防止」も呼びかけている。また、市内の新成人全員に対しチラシを配布するなど、啓発に努めている。</p>						
質的成果	<ul style="list-style-type: none"> ・街頭キャンペーン活動等に協力する団体等の拡大 ・防犯対策委員会との連携が拡大 						
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017
活動指標	－ キャンペーンの実施回数、配布物数	回	18	12	10	13	14
		セット	3,000	4,200	3,800	4,000	4,160
【短期】認識・知識	－ 交通を「知っており、守っている」と答えた割合 [自転車駐車場利用者アンケート※20歳以上]	%	67.2	66.6	74.9	75.6	集計中
【中期】態度・行動	－ 自転車関連事故に占める20歳以上の件数[警察統計]	%	329	282	281	240	232
【長期】状況	－ 自転車の交通事故発生件数[警察統計]	件	523	471	458	403	368



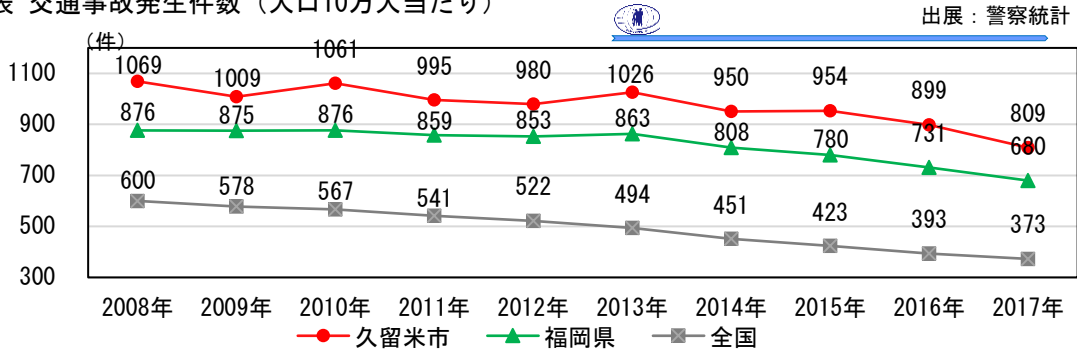
3 交通事故に関する状況

①交通事故発生件数の推移

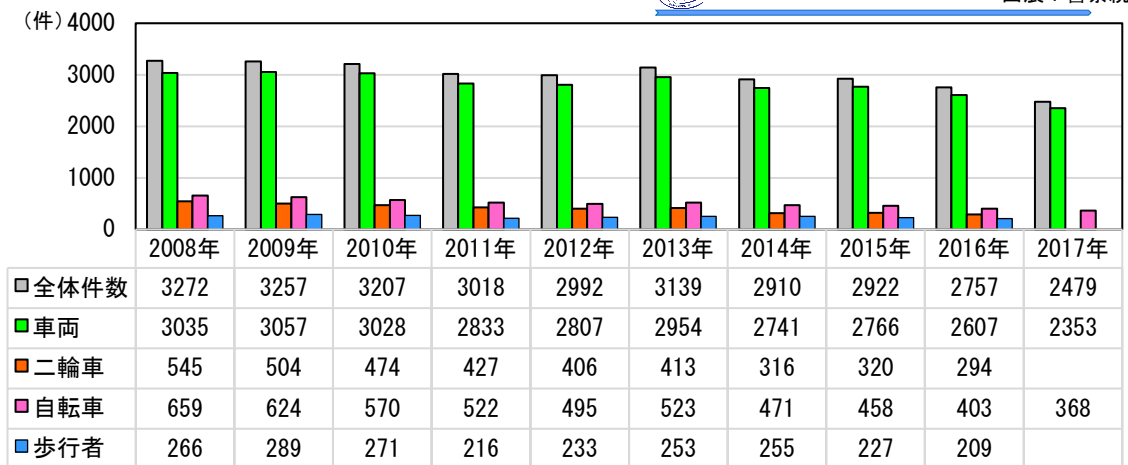
久留米市内の交通事故発生件数は減少傾向にあるものの、全国や福岡県の平均と比較すると高くなっています。

また、状態別に見ると、車両（自転車を含む）相互の事故が全体の約89%を占め、車と歩行者との事故は約10%となっています。

図表 交通事故発生件数（人口10万人当たり）



図表 状態別交通事故発生件数

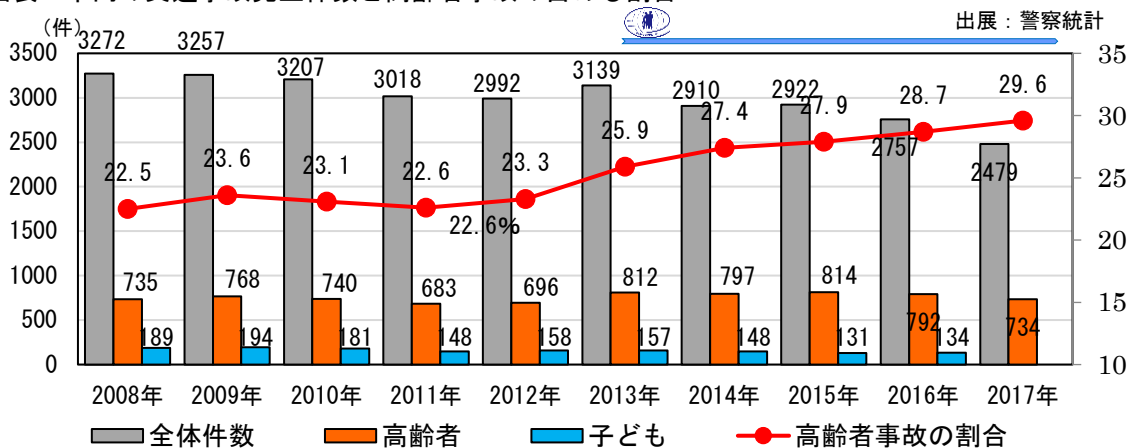


②高齢者事故の占める割合と死亡者数の推移

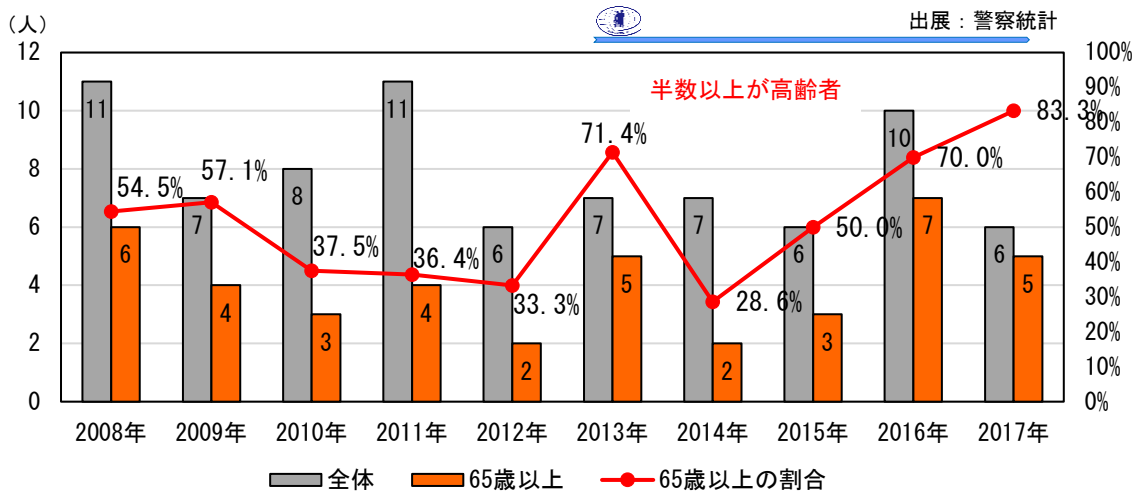
交通事故発生件数は、減少傾向にある一方で、高齢者関連の事故は増加しており、全体に占める高齢者の割合は上昇しています。

また、交通事故による死亡者の半数以上が高齢者となっています。

図表 市内の交通事故発生件数と高齢者事故の占める割合



図表 交通事故による死者数（うち65歳以上の高齢者）

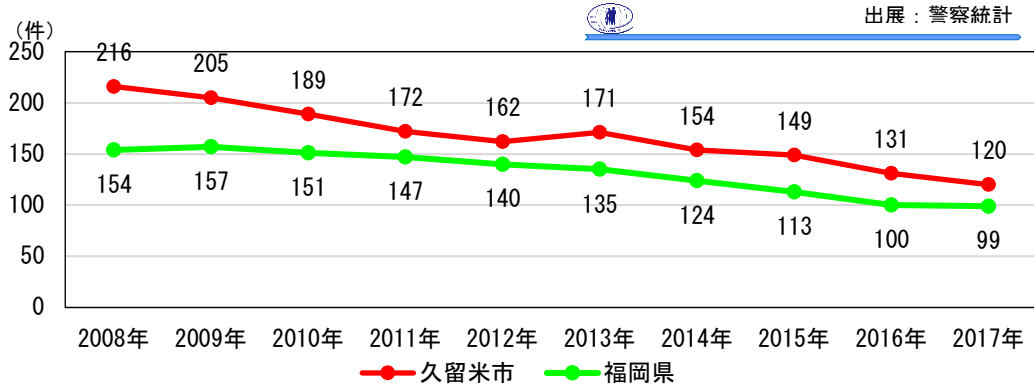


③自転車事故発生件数の推移

久留米市内の自転車事故発生件数は減少傾向にあるものの、福岡県よりも多くなっています。

また、年齢層ごとに交通事故の状況を見ると、比較的どの年齢層においても「自動車」による事故の割合が高い一方で、7～17歳では「自転車」の事故の割合が高くなっているのが特徴として見られます。

図表 人口10万人当たりの自転車事故発生件数



『「自転車」「歩行者」は、重傷・死亡事故の割合が高い』（特に高齢者と子ども）を表すデータ

- ⇒ ・状況別（歩行者、自転車、自動車、二輪車などとの比較）
- ・年齢層別

※データ抽出依頼中（警察統計）

【学校】

①「児童の登下校中の事故件数の推移」

- ・ 7：00～8：30／15：00～17：00 の時間帯（登下校中） ※可能なら土日を除く平日？
- ・ 対象年齢は、7歳～12歳（年齢毎）
- ・ 歩行中、自転車（各々）

以上の条件に当てはまる件数

②①の発生場所 ※過去3年間の累計

③①の状況（対車 or 対自転車など） ※過去3年間の累計